

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令遵守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	児童発達支援管理者、児童指導員、保育士を配置。法律上の配置数は満たしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	建物の構造上完全なバリアフリーではない。危ないと疑いのある場所は人的サポートをしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	サービス提供後には必ず清掃、消毒を実施している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	職員全員で支援終了後にミーティングを行い、情報共有と記録を作成し、個別支援計画を基に課題に対する支援を実施、振り返りを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	本年度から新規起ち上げた教室の為、今期の集計分から公開する。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	実務研修を行い質の向上を図っている。	
適切な支援の	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	保護者と面談を行い、課題やニーズを把握し、支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	アセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	保護者との面談やフィードバック等の聞き取りを参考に、子供の支援に必要な項目を適切に選択・設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	児童発達支援計画に沿った支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	職員間でミーティングを行い、活動プログラムを組み、実施している。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	児童の様子や保護者のご要望を取り入れて、適宜工夫している。		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	1人1人の目標に沿った計画を立案している。契約日以外でも適したクラス(個別療育、集団療育)があれば事前に案内している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前には毎日ミーティングを行い、支援の内容や役割分担について確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日、利用者ごとにその日の支援に関して記録・検証しているが、よりよい改善策を提案できるよう努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的なモニタリング・保護者との面談を実施している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		利用者から希望の声があれば、今後は対応していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		当事業所には医療的ケアが必要な児童は在籍していない。今後必要があれば連携して支援していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		当事業所には医療的ケアが必要な児童は在籍していない。今後必要があれば連携して支援していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在、こども園等と支援内容等の情報共有は行っていない。必要に応じて検討していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在、小学校、支援学校等と支援内容等の情報共有は行っていない。必要に応じて検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	広く連携している訳ではないが、利用者の利用している他事業所とは連絡を取り、情報共有する事もある。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会を計画している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		前向きに検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	支援終了時に毎回指導員が支援内容や目的、児童の状態等を直接話し、保護者からの意見やニーズも受け止め、共通理解を持てるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者から相談等があった場合はアドバイス等している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	説明は基本契約時に行っているが、求められたら随時お伝えしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	適切な手順を踏んだうえでガイドラインに沿った内容の支援計画を作成し同意していただいている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	面談は定期的実施しており、その他にも利用後のフィードバック時に相談があった場合はその都度回答・記録し、職員間で共有している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		現状は保護者同士の連携を支援していない。希望があれば検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報誌はないが、ホームページや書面、SNSアプリを利用して情報発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報が含まれる書類はファイル等で整理し、鍵のかかる書庫に保管している。廃棄する場合はシュレッダーにかけている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	訓練を実施している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	地震や火災等非常事態を想定した避難の訓練を実施している。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただき、職員間で情報共有をしている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	サービス提供時間内に食事の提供はしていないが、食物アレルギーなど保護者から聞き取りし、全職員に周知している。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハット事例集を作成し、共有している。	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止の資料をもとに内部研修を行っている。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	9	0	0	1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	9	0	0	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8	0	0	2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9	0	0	1		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9	0	0	1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	3	1	4		
保護者への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	0	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	9	0	0	1		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	1	4	2	3		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	9	1	0	0		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	6	2	0	2		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	5	3	2		
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8	0	0	2		
17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10	0	0	0			

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	1	1	2		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	9	0	0	0		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	7	0	0	2		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	0	0	0		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	7	1	0	1		
	23	事業所の支援に満足しているか	9	0	0	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名

TAKUMI 神戸住吉教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	児童発達支援管理者、児童指導員、保育士を配置。法律上の配置数は満たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建物の構造上完全なバリアフリーではない。危ないと思われる場所には人的サポートをしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	職員全員で支援終了後にミーティングを行い、情報共有と記録を作成し、個別支援計画を基に課題に対する支援を実施、振り返りを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	本年度から新規起ち上げた教室の為、今期の集計分から公開する。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	実務研修を行い質の向上を図っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	保護者と面談を行い、課題やニーズを把握し、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	アセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	職員間でミーティングを行い、活動プログラムを組み、実施している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	児童の様子や保護者のご要望を取り入れて、適宜工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は、長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容、流れで実施している。長期休暇期間にはイベントを実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1人1人の目標に沿った計画を立案している。契約日以外でも適したクラス(個別療育、集団療育)があれば事前に案内している。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前には毎日ミーティングを行い、支援の内容や役割分担について確認している。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI 神戸住吉教室

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日、利用者ごとにその日の支援に関して記録・検証しているが、よりよい改善策を提案できるよう努めていく。	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的なモニタリング・保護者との面談を実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	情報共有は行っていないが、学校のホームページや保護者を通して情報収集をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		当事業所には医療的ケアが必要な児童は在籍していない。今後必要があれば連携して支援していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	他事業所の情報は契約時に保護者からいただいている。その他の関係機関とは、今後希望があれば随時検討・対応していく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		卒業生がいらないため実績はまだないが、今後必要に応じて検討していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	広く連携している訳ではないが、利用者の利用している他事業所とは連絡を取り、情報共有する事もある。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		希望に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		今後開催があれば参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	支援終了時に毎回指導員が支援内容や目的、児童の状態等を直接話し、保護者からの意見やニーズも受け止め、共通理解を持てるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者から相談等があった場合はアドバイス等している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI 神戸住吉教室

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	説明は基本契約時に行っているが、求められたら随時お伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者の方からの悩み等に関する相談は指導員や児発管が悩みを聞き出すように声を掛けて助言や支援を行なっている。一人の判断で回答出来ない時はミーティングを行い回答するように心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		現状は保護者同士の連携を支援していない。希望があれば検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報誌はないが、ホームページや書面、SNSアプリを利用して情報発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報が含まれる書類はファイル等で整理し、鍵のかかる書庫に保管している。廃棄する場合はシュレッダーにかけている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	訓練を実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	地震や火災等非常事態を想定した避難の訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止の資料をもとに内部研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	サービス提供時間内に食事の提供はしていないが、食物アレルギーなど保護者から聞き取りし、全職員に周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハット事例集を作成し、共有している。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	7	0	0	2		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	4	0	0		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	9	0	0	0		
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回新しいプログラムを考えてくださっている。 ・体育で出来た！と自信につながるようプログラムを希望。(Ex.学校体育で行う前に練習が出来る)と初めてではなくなるので、安心して自信をもって取り組める為) ・プログラム活動を通して考える力やコミュニケーション力が上がるとうれしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様やお子様から今何をしているのか(体育の授業内容)を聞く。 ・学校と連携を行い、授業についてやお子様の様子を話し合うことで、より良い支援を行えるようになる。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	3	2		
保護者 への 説明 等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	9	0	0	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	2	0	0	今後あると助かります。自宅で出来ることがあれば教わりたい。	保護者様が困っていることやニーズは変わるものなのでフィードバックや送迎の際に聞く。TAKUMIとご家庭での共有を行う。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	5	3	1		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	1	0	2		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	0	0	0		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	7	1	1	0		
14 個人情報に十分注意しているか	8	1	0	0			
非常 時 等	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	8	0	0	1		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 神戸住吉教室

子の対応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	0	0	0		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	9	0	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	8	1	0	0		

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。